

第 14 回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2024) 開催報告

(東北支部 第62回学術大会)

実行委員長 加藤 守

令和6年10月5日(土)・6日(日)の二日間にわたり、第14回東北放射線医療技術学術大会(日本放射線技術学会 東北支部第62回学術大会並びに日本診療放射線技師会 令和6年度東北地域学術大会による合同開催)が、秋田市にぎわい交流館AU(あう)を会場に、Web配信を併用したハイブリッド形式で開催されました。

今大会は新型コロナウイルス感染症が落ち着き始めたということもあり、登録参加者総数は526名に達しました。内訳は現地参加者450名(会員388名、非会員35名、学生27名)、Web参加者76名(会員71名、非会員3名、学生2名)となり、予想を上回る多くのご参加をいただきました。

本大会のメインテーマを「The Great Reset of Radiological Technology ～未来への創造～」といたしました。「The Great Reset」は世界経済フォーラムが提唱した概念です。コロナ禍・気候変動・経済格差といった課題が浮き彫りとなる中で、そのような社会システムを見直し、より持続可能で公平な社会へと再構築しようとする考え方です。放射線検査学の技術革新は、医療・環境・技術革新・教育・経済といった幅広い分野で「The Great Reset」の目標達成に貢献する可能性があります。特に、持続可能な医療の提供や健康格差の解消、効率性の向上において重要な役割を果たすと考えます。このテーマのもと、特別講演には秋田大学 高齢者医療先端研究センター長・教授の大田秀隆先生から、高齢者に関連するさまざまな疾患や社会問題について、多角的かつ学際的な視点からの研究報告があり、特に認知症に関してセンター設立時から最も重要な研究課題の一つとして位置づけ、継続的な研究が進められている現状についてご講演いただきました。実行委員会企画1では、特別講演と関連付けて「認知症検査の役割と解釈 - 神経心理検査と放射線検査 -」と題して、神経心理検査と画像診断の両側面から認知症診療における各検査の役割と今後の診断の可能性について学習する企画としました。また、実行委員会企画2では、診断参考レベル2025のアンケート調査開始時期と重なったことから、以前の診断参考レベル2020と調査内容が変化した4領域における解説を含め、期待と課題を講演いただきディスカッションを行いました。JART企画、JSRT企画、JART・JSRT合同企画では15セッションが開催され、一般演題では98演題登録いただき、業務改善並びに研究活動の成果を会場でご発表いただきました。ご発表、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。また、日本放射線技術学会の石田隆行代表理事、奥田保男副代表理事、日本診療放射線技師会の江藤芳浩副会長にご臨席いただき、厚くお礼を申し上げます。さらに、情報交換会には250名もの皆様に参加いただきました。秋田を代表する希少な地酒や新潟を含む東北各県の地酒を心ゆくまでお楽しみいただき、交流を深めていただけたことと思います。

最後に、大会期間中、大きなトラブルもなく無事に閉会を迎えることができました。これもひとえに、本大会の開催にご尽力いただきました実行委員の皆様並びに協賛いただいた企業の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

大会概要

会 期： 令和6年10月5日(土)～10月6日(日)

会 場： 秋田市にぎわい交流館AU(あう) (ハイブリッド開催)

テーマ： The Great Reset of Radiological Technology ～未来への創造～

参加者： 526名 (現地参加:450名・Web参加:76名)・(会員:459名・非会員:38名・学生:29名)
(協賛企業:70名(機器展示18小間×3名・ハンズオンセミナー6名・労務提供10名))

内 容： ① 一般演題発表 98演題(99演題申し込, 1演題取り下げ) セッション数 20

内訳 秋田(22), 青森(9), 岩手(13), 宮城(23), 福島(23), 新潟(3), 山形(5)

② 特別講演(1), 大会長講演(1), 実行委員会企画(2), JART・JSRT合同企画(1), JART企画(6), JSRT企画(8), ハンズオンセミナー(2)

③ ランチョンセミナー 4社 アフタヌーン・ティータイムセミナー 2社

④ 企業展示 17社 (18小間), 抄録広告協賛 30社, ホームページバナー広告協賛 4社

主 催： 公益社団法人 日本放射線技術学会 東北支部

公益社団法人 日本診療放射線技師会 東北地域診療放射線技師会